

II.2.J2.E2 118

東京、2026 年 3 月 6 日

リップ・イン・ピース☆9+25 御中

親愛なる皆様

1 月 3 日にベネズエラに対して米国が一方的に軍事攻撃を行い、憲法により定められたニコラス・マドゥロ大統領とフアーストレディで国会議員のシリア・フロ雷斯氏が誘拐された事件に対し、皆様の抗議デモに対し、ボリバル政府、ベネズエラ国民、そして私自身を代表して、この場を借りて感謝の意を表します。

リップ・イン・ピース☆9+25 の迅速な対応により、私たちが最も困難な時期に支えられていると感じ、人々が正義という同じ理想を共有していれば地理的な距離は存在しないということをおい出させてくれたことを、大変嬉しく思います。

真実を守るために声を上げた勇氣、絶え間ない動員、そして国際的な偽情報に対する防壁として機能したこの攻撃に対するあらゆる非難の姿勢に深く感謝いたします。

戦争の記憶と国々の調和の価値を深く知る日本人々は、私たちにとって道徳的な基準です。ベネズエラを守ることは、すべての人類が多極化した世界で、誰の監視も受けずに生きる権利を守ることなのです。

残虐な襲撃から 2 ヶ月が経ちました、愛を込めて、私たちの旗を高く掲げ続けるよう訴えます。皆様には、動員を強化し、団結して、毎日が正義を求める世界的な叫びとなり、皆様の抗議の声が日本の街頭に響き渡り、大統領夫妻の即時帰国を求めめる一致した要求が生き続けるよう強く求めます。彼らの強制的な不在は、私たちの民主主義に深く刻まれた傷であり、国民の主権意志への侵害です。

日本とベネズエラは、外部からの侵略を受けない未来を願うという共通の願いによって結ばれています。彼らの支持の表明は道徳的な安堵であるだけでなく、国際主義的連帯こそが人々の優しさであるという政治的証でもあります。

侵略に直面しても、私たちは平和、団結、そして創造的な抵抗によって対応し続けます。解放者シモン・ボリバルの生誕地であり、豊かな歴史と多様性に富むカリブ海の国、ベネズエラには、この試練の時に手を差し伸べてくれた人々をけつて忘れません。

最大限の敬意と闘志をもって、私の尊敬と卓越した配慮の保証を改めて強調する機会となりますよう願います。

敬具

Seiko Ishikawa
Embajador